

1 日 時 令和7年2月17日(月) 午前9時から11時まで

2 参加者

○学校運営協議会委員

- ・岩崎久和(元県立学校長)
- ・平松勇人(P T A会長)
- ・大城直明(中瀬4区自治会長)
- ・池田文彦(株式会社ソミックエンジニアリング 代表取締役社長)
- ・平田浩二(浜松市浜名区 区振興課 課長補佐)
- ・大木茂(聖隷こども家庭総合支援センター長)

※ 加藤祐司(社会福祉法人みどりの樹 管理者)は欠席

○教職員

校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、自立グループ主任、教務課長

3 次第

(1) 会長挨拶

- ・組織を動かしていくためには、いろいろなアイデアが必要。学校とは違う立場から御見をいただきたい。

(2) 校長挨拶

- ・皆さんは浜北特別支援学校の応援団だと思っている。今回は一年間の学校評価がメインになるが、御意見をいただきたい。

(3) 協議

① 各学部の年度末評価の報告【学部主事】

○小学部、中学部、高等部の各学部主事から年間の活動と評価について報告。

- ・業務の効率化について、例えば残業時間などは客観的な数値に基づいて改善の度合いが捉えられるようにするのがよい。(G委員)
- ・挨拶運動などの活動が行われているが、そのような日々の取組が定着していると感じる。日々の積み重ねが大切であると改めて感じる。(C委員)

② 学校経営報告書（自己評価）についての報告及び依頼【副校長】

○副校長から学校全体の年間の活動と評価について報告。

③ 来年度の学校運営に係る意見交換

- ・若い教員や転勤してきた教員に対するマニュアルのようなものはあるか。（E委員）→ 研修は県全体で行われている。またOJTという流れもある。特別支援学校はTTでの指導が基本なので共有する機会は多い。
- ・企業で評価をする場合は、どういった取組に対してどのような課題があり、そこへどう切り込んでいくのかをスタートの時点で明確にしている。そして評価するために客観的に見える数値で具体的に表す。定性的な部分も大切だが、それがどれぐらい達成できたのかを分析するためにも数値での扱いはとても重要。（E委員）
- ・ヒヤリハットもそうだが、会社でも「共有」は極めて重要。報告だけではなく、いつの出来事なのかも重視する。（E委員）
- ・けやき祭はとても盛り上がった。協力してくれている地域の人たちの連携が図れるとさらによいと感じた。（C委員）
- ・ICTについては教員の苦手意識があるということだが、うまく活用することで業務をスムーズに進めることができるとよい。（B委員）→ 県においてはAIを活用して業務を進めていこうという流れがある。ICTは今後ますます欠かせないものになる。
- ・ICTに関して、障害を持った子どもたちのインターネット上のトラブルが非常に多い。使い方がよく分かっていない子が多い。しかし、うまく使えば彼らの世界を広げることができる。（G委員）
- ・今年は学校の中が明るくなったと思う。先生方が明るくなった。雰囲気良くなれば子どもたちは活発になり、先生方も動きやすくなる。項目にある「笑顔に満ち溢れた学校生活」のところはかなりできていると思う。（A委員）
- ・高等部の清掃場所として中瀬コミュニティーセンター、草取りとして西中瀬コミュニティー公園を計画に入れていただけるとありがたい。（C委員）
- ・中瀬コミュニティーセンターに子どもたちの作品を展示したい。（C委員）

④ 来年度の協議会委員について

○今年度の7名が来年度も引き続き委員として継続することを確認。

(4) その他

○委員に対し、学校関係者評価の提出を依頼。